令和６年度の森林環境譲与税の使途（地域林政アドバイザー等設置支援事業）

➢ 市町・地域による地域林政アドバイザー等の雇用等を支援することで、各市町・地域の主体性を尊重した実行体制の確立を促進し、森林整備の加速、森林の有する多面的機能の維持・増進を図ります。

□ 事業内容

地域林政アドバイザー等設置支援事業

各市町・地域において、森林・林業に関する専門知識・経験を有する者を雇用・委託する際の経費を支援する。

【事業費】 6,860千円（全額譲与税）

【実　績】 県内２市に対する補助

□ 取組の背景

- 県内の市町では、従来の業務に加えて、令和元年度から新たに森林経営管理制度や森林環境譲与税を活用した森林整備等の活動を行っていく必要が生じた。
- 市町職員には林業の専門知識を有する者が少なく、かつ他分野を兼務していることも少なくないことから、林業経営に関する専門知識と経験をもって市町の活動を支援する必要があった。

⇒R元年～地域林政アドバイザー設置事業
（県でアドバイザーを設置）

- その結果、18市町で意向調査を、9市町で森林整備を実施するなど運営体制の一定の素地はできつつある。
- 一方、外部から支援できる範囲にも限界があり、地域課題やその対応策が洗い出されてくる等各地の実行体制に入り込んだ人的支援が必要となってきた。

□ 工夫・留意した点

- 県からの派遣ではなく、地域に密着した人材を市町が自由に雇用できるようにした。

□ 取組の効果

- 委託をしている地域林政アドバイザーの方は森林行政の知識が豊富であり林野庁や他市町村とのつながりもあるため、ジャンルにとらわれず様々な疑問、課題について相談できた。
- 地域林政アドバイザー側から積極的に林業にまつわるニュースやトピックスを紹介してくれるので、市職員の林政業務に関する理解が深まった。
- 森林経営管理制度の運営支援により円滑な業務実行及び面積拡大につながった。
- 林務の知識や実務経験が浅い職員への助言により人材育成にもつながった。

（地域林政アドバイザーとの意見交換）

（森林所有者への事業説明）

令和6年度の森林環境譲与税の使途（さが林業アカデミーの開講）

- 森林は、木材の生産をはじめ、水源の涵養(かんよう)や土砂の流出防止、二酸化炭素の吸収など、私たちに様々な恩恵を与えており、将来にわたって守り育てていくことが重要です。
- そこで、佐賀県では令和4年度から「さが林業アカデミー」を開講し、セミナーや体験会、講習会を通じて、林業に情熱を持ち、知識や技術力を備えた人材の育成を図っています。

□ 事業内容

さがの林業再生プロジェクト推進事業（さが林業アカデミー）

- 林業就業セミナー(東京・佐賀)、林業体験会、林業講習会の開催
- さが林業アカデミーのウェブサイトの構築など

【事業費】

11,641千円（全額譲与税）

□ 取組の背景

- 森林を適切に整備するために、林業就業者や林業事業体など、林業の担い手の存在が欠かせない。
- しかし、県内における林業の担い手は年々減少しており、直近10年間で6割にまで減少した。
- 今後、県内の森林を持続的に守り育てていくために、林業の担い手の確保・育成が急務といえる。

□ 工夫・留意した点

- ふるさと回帰支援センターや県移住支援室などと連携し、首都圏・近県からの参加者の取り込みに努めた。
- 林業就業に興味がある方向けに林業就業相談会を開催した。
- 林業講習会では、県内の事業体に就業間もない方の受け入れも可能とすることで、即戦力となる人材育成に努めた。
- 就業希望者の目線で、真に役に立つ情報を提供し、就業希望者が必要な情報にアクセスできるよう「さが林業アカデミー」ウェブサイトを構築した。

□ 取組の効果

- 就業セミナー　2回開催・21名参加
- 体験会　10名参加
- 講習会　4名受講
- Step. 1 ～3の参加者から4名が佐賀の林業事業体に就業した。

（林業就業セミナー）

（林業体験会）

（林業講習会）

令和6年度の森林環境譲与税の使途（林業機械導入への支援）

➢ 県産木材の価格が上昇し、本県林業にとって追い風となりうるこの機を捉え、林業事業体の生産基盤の整備などを行い、林業の再生につなげていく必要があるため、機械化を支援し、木材の伐採・搬出作業の効率化を推進します。

□ 事業内容

<u>林業機械導入に要する経費を支援</u>

林業事業体に対し、木材の伐採、搬出の効率化の推進に必要な林業機械の導入に要する経費の支援を実施。

【事業費】

4,680千円（全額譲与税）

【実　　績】1団体

・ラジキャリー　1台

□ 取組の背景

- 海外の経済活動の活発化等により、国内の外材が不足するとともに価格が高騰していたことから、外材の代わりに国産材の需要が高まり、県産木材の価格も高騰していた。
- そこで、県産木材の需要の高まりに対応するため、林業事業体の伐採・搬出作業の効率化に必要な林業機械の導入経費に対し支援を行い、伐採・搬出の効率化の推進及び県産木材の供給促進を図った。

□ 工夫・留意した点

- 架線を用いて木材を搬出する際に使用するラジキャリーは、国庫補助の対象ではあるが、県内には補助要件を満たさない小規模な事業体も多く、国庫補助や県の嵩上げ補助の対象外であった。
- しかし、本県の奥地や傾斜がきつい山林については、車両系での搬出作業は難しく、架線系での施業が重要となる。そこで国庫補助や県の嵩上げ補助の対象とならなかったラジキャリーを導入する事業体に対し県独自の補助事業で支援を行った。

□ 取組の効果

- 令和６年度には1つの林業事業体に対し、林業機械の導入への支援を行った。

（導入した林業機械）

令和6年度の森林環境譲与税の使途（林業経営体の人材育成）

➢ 森林経営管理制度の実施により、従来の森林整備に加えて、これまで手入れが行われなかった森林の間伐等の促進が期待される中で、森林整備の担い手である林業経営体等の人材育成が求められている。
➢ そこで、 林業経営体の現場技能者等を対象とした研修を開催し、現場技能者の技術、知識、労働安全対策の向上を図る。

□ 事業内容

林業経営体育成事業

林業経営体の現場技能者等を対象に各種研修を実施

【事業費】

4,954千円（全額譲与税）

□ 取組の背景

- 森林経営管理制度の実施により、今後、増加する県内の森林整備を担う林業経営体の現場技能者等の育成が必要である。
- 近年、集中豪雨など異常気象を背景とした山地災害が多発しており、災害に強い森林作業道等の開設ができるオペレーターの育成が必要である。

（伐木等高度技術研修）

（ICT活用路網整備研修）

□ 工夫・留意した点

- 伐木等高度技術研修では、手持ち機械の分解・整備及び目立て、支障木処理等、現場ですぐに実践できる内容とした。
- ICT活用路網整備（高度技能者）研修においては、ICT機器等を活用したヘアピンカーブの設計から作設までを体験できる内容とした。
- 高性能林業機械研修においては、繊維ロープを活用したスイングヤーダ集材方法が学べる内容とした。
- コスト管理・分析研修においては、カードゲーム感覚で木材生産性改善の要所が学べる内容とした。

□ 取組の効果

①伐木等高度技術研修
開催数：２回(４日間)、現場技能者４名受講
②ICT活用路網整備（高度技能者）研修
開催数：１回(３日間)、現場技能者３名受講
③高性能林業機械安全操作研修
開催数：１回(１日間)、現場技能者２名受講
④コスト管理・分析研修
開催数：１回(１日間)、現場管理者８名受講

➢ 令和6年度の成果として、

- 林業経営体の現場技術員等１７名を対象に、林業技術から現場管理、経営に関する研修を実施したことにより、技術、知識、労働安全対策の向上が図られた。

令和6年度の森林環境譲与税の使途（さがの木になるフェスの開催）

➢ 「木を伐って、使って、植えて、育てて、また伐る」という森林資源の循環利用の意義について県民の理解促進を図るため、森林・林業・木育に関する普及・啓発イベント「さがの木になるフェス」を開催。

□ 事業内容

さがの木になるフェスの開催

【内　容】

- 森林・林業・木育に関する体験型イベント
- 県産木材、サガンスギ、林業アカデミーのPR展示
- 木工工作コンクール等表彰式　他ステージイベント等

【事業費】4,192千円（うち譲与税 2,892千円）

【実　績】さがの木になるフェスの開催（R6.11.16～R6.11.17）

来場者数：約5,400人

□ 取組の背景

- 県では、持続可能な森林・林業の確立を目指し、「森を守る」「人を育てる」「木を使う」という基本方針に基づく施策を展開している。
- この施策の一つとして、「人を育てる」ための情報発信の場とするため、また、「木を使う」ことに対し県民一体となって取り組む意識を醸成するため、県民を対象としたイベントを開催することとした。

□ 工夫・留意した点

- 県が管理する森林・林業・木材産業関連のSNS、HP等で情報発信するとともに、「佐賀さいこうフェス」をはじめとする9つの様々なイベントとの同時開催による集客効果で、イベントの参加者数増加と客層拡大を図った。
- 林業・木材産業に関する体験に留まらず、森林や地球環境への関連やＳＤＧｓとのつながりを周知するための展示やイベント、アンケート調査を行った。

□ 取組の効果

- 林業や木材産業を体験することで、これらの就業に対して興味をもつ若年層を増やすことができた。
- 木材にふれることで、木材の良さを再認識してもらうことができた。
- 木材を使うことが林業の振興と森林の循環利用につながっていることを知ってもらうことで、木材利用の意義を認識してもらうことができた。
- 森林譲与税や森林・林業に関する県の取組みについて周知することができた。

（ミニ上棟体験）

（ステージ）

（木工教室）